

4 市民との協力

数多く出された病院再編に
対する市民の皆さんの声

昨年12月に市地域医療福祉体制検討委員会から提出された「市立病院の再編計画報告書」に基づき、これまで協議を重ね検討してきた登米市の医療の再編・改革の方向性の説明と、地域医療の在り方を市民の皆さんとともに考えようと、11月10日から28日まで各町域で市民説明会を開催しました。参加された皆さんからの質問や意見などについてお伝えします。

医療体制の現状と今後の方向性

説明会では会場ごとに、市長が「本年1月に市民の皆さんにご説明した市立病院の再編内容について、検証を重ね精査した結果をご説明するとともに、皆さんからの意見を頂きながら、これからの地域医療や介護、福祉などについても、病院、市民、行政が共に協力し、進めて行き

たい」と、あいさつを述べました。説明会では、登米市が抱える厳しい医療の現状や改善に向けて今後の方向性などが説明されました。

説明会で寄せられた参加者からの意見・質問

Q 在宅療養支援診療所は医師一人体制でも対応可能なのか？
A 市立病院では、医師一人体制の上沼診療所がすでに在宅療養支援診療所として24時間の往診体制を取っています。登米診療所も12月から実施しますが、23年4月までは、現状の2人体制で対応します。その後の診療所体制は現在検討中ですが、一人体制では困難なこともありま



すので、民間の在宅療養支援診療所と連携体制を整えたいと考え、救急救命士の増員と増車をしました。現地への到着時間も短縮できている状況です。病院側でも迅速な受け入れ体制が取れるように、市立病院だけでなく大崎市民病院、石巻赤十字病院との連携体制を構築しています。

支援診療所との連携強化を図る必要があります。なお、往診に応じることが出来る対象患者は、訪問診療あるいは訪問看護を受けている人に限ります。

Q 訪問看護の提供体制はどのようになっているのか？
A 米谷病院と豊里病院に訪問看護ステーションがあり、24時間対応しています。豊里には10人、米谷病院には5人の看護師を配置しています。今後、市内全域をカバーする訪問看護体制の充実に向けて、人員の増員を図っていきます。

Q 市立病院は民間病院と比較して経営の仕方が違うのか。民間はこんなに赤字にならないようにできているのでは？
A 登米医療圏には開業医の数が少なく、公的な医療機関以外に入院できる施設も少ないなど、市立病院が果たしてきた役割も考えなければなりません。赤字が大きい左沼病院は、合併前から登米市の救急医療・小児産科医療を支えてきました。救急医療は医療技術職などを待機させているということもあり、人件費がかかる不採算部門といわれていますが、費用対効果が求められるからといって救急医療を切り捨てるということは考えられません。一番の赤字の要因は人件費が大きいことと認識していますので、人員削減へ

Q 災害時などでけが人が発生した場合、対応はどうなるのか？
A 市では、災害拠点病院として左沼病院が指定を受けています。しかしながら、大規模災害の場合には建物や道路なども壊滅的な被害が出て、病院機能が果たせないこ

Q 救急車が20年度に東出張所と西出張所にそれぞれ1台ずつ増車されたようだが、病院の受け入れ体制は大丈夫なのか？
A 救急車を増やしたからといって、患者が増えるとは想定しておりません。救急車が必要な人に対していち早く対応ができる体制を構築しています。

Q 合併時からの累積赤字・不良債務解消への対策は？
A 合併時点の累積赤字は53億円でした。累積赤字は帳簿上の赤字ですので、今後の収益改善に伴って減少させていきたいと考えています。経営上問題なのは現金が不足する不良債務になります。民間の金融機関からの一時借入金で資金不足に対応していますが、今後、20年度に限り認められている病院特例債の借入と一般会計からの繰入金を増やすことで、23年度の単年度黒字、その後4、5年をかけて不良債務解消を図っていきたくと考えています。

Q 救急車が20年度に東出張所と西出張所にそれぞれ1台ずつ増車されたようだが、病院の受け入れ体制は大丈夫なのか？
A 救急車を増やしたからといって、患者が増えるとは想定しておりません。救急車が必要な人に対していち早く対応ができる体制を構築しています。

Q 救急車が20年度に東出張所と西出張所にそれぞれ1台ずつ増車されたようだが、病院の受け入れ体制は大丈夫なのか？
A 救急車を増やしたからといって、患者が増えるとは想定しておりません。救急車が必要な人に対していち早く対応ができる体制を構築しています。

【問い合わせ】
医療局経営改革推進室
☎0220(21)5030

市民が安心して暮らせる体制づくりに期待



南浦 まどかさん36歳 (石越町第八区)

現 在、小児科や産婦人科などは、市外の病院で受診しています。今すぐという訳にはいかないでしょうが、将来は診療科目や体制が充実し、市内の病院で受診できるようになってほしいと思います。また、都市部の大きな病院と、医師間や病院間で連携をして太いパイプを作り、緊急の際や専門的な治療が必要な場合の受け入れ体制なども充実させてほしいと思います。市内の各病院や診療所、医師らがみんなで協力し合い、市民が安心して暮らせるような医療体制になるように期待します。

市民が一つになって考えていくことが重要



河内 正治さん48歳 (登米町九日町)

医 師不足は、制度上の問題など課題は多いと思いますが、賃金や勤務環境の改善によって、一人でも多くの医師が登米市に定着してくれるように願っています。また、診療所については、学校や会社が終わった後でも受診できるように診療時間を延長するなど、有効に利用できる施設になってほしいと思います。この病院問題は難しい問題なので、結果や方向性が見えるまで時間がかかると思いますが、市民が町域の垣根を越え、共に考えることが最も重要だと思っています。

介護や福祉関係なども充実させてほしい



石川 つよみさん58歳 (中田町ニッ木)

わ が家では、何かあると、地域のかかりつけ医で受診するようになっていますが、孫がいるので、休日や夜間などは市立、個人病院を問わず市内の医師が協力して、緊急の際の受け入れ体制をより充実してもらえると安心です。医師不足については、地元出身の医師が「登米市に帰って働こう」と思えるような病院の環境を作っていくってほしいと思います。また、これからは高齢者が多くなっていくので、介護や福祉関係の充実も医療環境の改善と同じくらい重要だと思っています。

向けた取り組みをしていかなければならないと考えています。また、病院事業は、医師を確保しなければ医療収入は増えませんので、確保に努めていきます。



市や病院では、市民の健康や安全を守る地域医療環境を維持し、「登米市に病院がなくなる」という最悪の状態を防ぐため、人員の見直しや経費の削減など、経営改善に向け懸命の努力を続けています。しかし、深刻化する地方の医師不足、それに伴う診療科の縮小や閉鎖、医師の過酷な勤務形態、患者数の減少など、環境は大変厳しいものとなっており、登米市の地域医療は重大な局面に立たされています。「地域医療」という問題は、市民の皆さんの協力と、理解が無ければ改善することが難しい問題です。市では、市民の皆さんが安心して暮らせるような医療や福祉などの環境の構築や、サービスの充実を目指し、今後もさまざまな問題の解決に向けて市民の皆さんとともに考え、「登米市型」の医療体制を構築していきます。